

平成18年度中間評価結果（平成19年3月）

[研究開発課題名] ZigBeeを利用したユビキタスネットワーク技術の研究開発

[委託機関名] 沖電気工業株式会社

項目	評価 ランク	所 見	再評価 ランク	再 所 見
総合所見	A	<p>(技術：研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見)</p> <p>新タイプC への開発変更、センシングデータのサンプリングと一時的蓄積を行う機能の追加、携帯電話のインターフェースが変更されることに対する検討、また、スタンダードプロファイルの規定に向けた標準化活動など、環境変化や技術的な前提条件の変化に適合できるよう努力がなされ、着実に成果が得られている。</p> <p>また、「安全・安心」に関する例として、「地下街における消防活動」への応用を検討しており、成果が期待できる。</p> <p>なお、ZigBee の認知・普及という面では、日本は、欧米やアジア諸国に対して遅れている。ZigBee はまだ市場の立ち上がり前の黎明期にあるが、ZigBee の中に日本向けのSIG を立ちあげ、理事長を務めている沖電気工業が、機会あるごとに、本研究で作成した無線ノードなどを展示して、成果をアピールし、認知・普及に向けた推進役を務めることを大いに期待する。</p> <p>なお、普及面でスピードダウンになることも危惧されるので、ZigBeeの市場の立ち上がりにプラスになるようなタイプ（例えば、携帯ゲーム機やデジタルオーディオ端末と接続して利用できるような）の開発も考慮に入れて、タイプA、タイプCの開発を期待したい。</p> <p>なお、外部発表については、宣伝効果も含めて、国際会議、IEEE Magazine、さらに可能であれば論文などへの投稿も検討されたい。</p> <p>本研究開発は、ZigBeeネットワークの技術課題を解決し、それを国際標準規格の策定に反映させるという流れを作りつつ、開発がなされている点が最も特徴的な点である。また、このようなスタイルは、現在、日本の技術開発戦略上最も重要な点なので、これが1つのモデルケースとなるよう、頑張っていたいただきたい。</p>	—	(技術)
		<p>(事業化：事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的な所見)</p> <p>低コスト・低消費電力によりユビキタスネットワークにおいて広い利用分野を有するZigBeeについて、3つのノードタイプを製品化しコンポーネント販売を実施する「ZigBeeノードコンポーネント事業」、地域住民に安全・安心等を提供するネットワークサービスの実現に寄与する「地域アドホックネットワーク・アプリケーション・プラットフォーム事業」を展開する事業化計画である。</p> <p>受託者が一定の実績を有する地域公共部門を中心とした製品・サービス展開を計画しているが、民間への市場展開の可能性も有しており、一定の収益獲得が期待される。</p>		(事業化)

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。